



東京部会(第61回)

日時: 2013年11月19日(火) 19:00-21:15

場所: 日本大学経済学部本部館中2階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、小巻(日大)、新井(小石川中等教育)、高橋(桜修館中等教育)、塙(都立多摩高)、升野(筑波大学附属中学校)、大川(川口市里中)、石山(東証)、鬼塚(日本フィナンシャルプランナーズ)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 新井先生より、配布資料『東京部会レポート』に基づき、最初に来年の夏休み経済教室の日程が確定され(8月4-5日大阪、7-8日名古屋、14-15日東京[高校]、18-19日東京[中学])、内容の構想にも簡単に触れられた。また、特に高校の部で、「入門的」な内容を加えることの提案があり、今後検討することとなった。次に、年次大会(来年3月22日、於同志社大)でのテーマ「法教育と経済教育の対話③」について、主要参加者案が確認された。さらに、活動報告として今後のWSの予定が取り上げられ、12月17日の福井、12月21日の神奈川、来年1月14日の愛知、さらに2月中旬の埼玉川口での開催の計画が報告された。
なお、配布資料として、12月21日の神奈川でのWSの中心となる金子幹夫先生による経済教育学会第29回全国大会での報告「高校生は経済学の用語をどのようにして理解していくのか」について説明があった。
2. 篠原先生より、これまでの教材や実践をまとめた「実践事例集」の編集についての提案があり、どのような形にするか、またどのように進めるべきかについて議論された。とりあえず、ウェブに上げることにして、これまでの教材や実践の担当者自身が、教材をより分かりやすく使いやすくするような解説などを加える作業を行う一方で、全体をまとめる役を誰かに依頼することも検討された。
3. 塙先生より、クラスでの実践事例の説明があった。科目名は「政治・経済」であるが、あくまで法律の単元名で、生徒の法律的な思考力を高めるために、「法的思考を用いた民事調停ゲーム」を実践したことについての報告があった。具体的には、スマートフォンが壊れてしまったことに何らかの意味で関与した人たちの責任と弁償の必要性を議論し、修理代の負担について、各生徒が調停員になったつもりで、グループあるいは一人で調停案を考えるというもの。塙先生の説明後、色々な感想や質疑応答があり、特に法律的に興味深い実践事例であるという点、その一方で経済学との接点が見つけにくいという点などが指摘された。
4. 宮尾より、第1の配付資料「経済学の基本テーマについての質問:2題」について、実際に学生(大学1~2年生)から出された「合理的な個人とは何か」という質問に対する答から、さらに議論を広げていく方法が説明された。また「一石二鳥」をキーワードに、「効率性と公平性」という2つの経済学の目的を達成するためには、「競争政策と再分配政策」という2つの手段が必要であることの説明があった。次に第2の配布資料で、昨年11月に東京部会で説明した「公共財・タダ乗りのゲーム」について再度解説の上で、第3の資料「クラス実験・公共財・タダ乗りのゲーム(繰り返しゲーム版)」にしたがって、どのように繰り返しゲームにするかの詳しい説明があった。間もなく実際にクラスで実験される予定で、その結果は12月の東京部会で報告されることになった。

次回開催予定: 12月17日(火)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部(詳細未定)。また、来年の1月は21日(火)、2月18日(火)の日程が確定。議題は、11月東京部会での論点をさらに検討すること、その他。